

人類と地球の未来のために（中2 保健体育科）

三重大学教育学部附属中学校 教諭 稲垣友裕

I はじめに

本研究を進めるにあたって、教科の目標達成に必要な資質能力と、国立教育政策研究所がESDに関して提唱する「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」とが関連していると考えられる。なぜならば、「③多面的、総合的に考える力」は、自己の課題解決の活動や社会の課題について考える活動で必要になる力であり、「④コミュニケーションを行う力」もコミュニケーションを行いつつ仲間と課題を共有し取り組んでいくことは、課題の解決の過程にも大きな影響を及ぼすと考えられるからである。そしてそのような活動で養った力は本校の研究主題にもある「社会の変化に対応できる生徒の育成」にもつながっていくと考える。

また、教科の学習を進める中で、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うための学習指導計画や、ESDの視点に立った学習目標を意識し、ほかの教科との関連性を把握した授業を構成していく。さらに保健体育科の授業の中におけるつながりだけでなく、今まで学習した他教科の学習内容との関連づけができる、生徒の意識の変容をねらっていきたい。

II 実践の概要

- ①実施日時：2019年2月（全4限）
- ②実施場所：附属中学校第2学年各教室
- ③授業概要

2年生の保健体育科（保健分野）では、年間を通じて「健康と環境」を学習している。その最後の単元が今回実践する「人類と地球の未来のために」である。この単元は、「環境の汚染と保全」という単元の発展的にもっと広げる深める学習として位置づけられている。

現代は物が豊富になり、生活が便利になった一方で、様々な環境問題が地球規模で起こっている。地球規模の環境問題を解決していくためには、世界各国の協力が必要で、そのための条約の締結や取り組みが国際的な規模で進められている。国では、環境基本法に基づいて、地球温暖化対策、環境教育、国際協力などに取り組んでいる。

そこで、自分たちも自分が環境に負荷をかけていることを自覚し、地球にやさしいライフスタイルの実践について考えることを大切にしたい実践を行った。本実践では、「人類と地球の未来のために、自分たちができること」を考えることを課題にiPadを用いた調べ学習やグループワークをもとに授業を進めていった。

Ⅲ 授業の実際

■持続可能な社会について知る

授業は、各教室で行った。はじめに、持続可能な社会について、教科書をもとに学習した。その中でも、持続可能な社会は、「循環型社会」「低炭素社会」「自然共生社会」3つがそろうことで実現されることを重点的におさえるようにした。

また、実際に起きている環境問題として、地球温暖化と予想される生活への影響と生物多様性の問題を紹介して、これらを解決する必要性を伝えた。

■グループ活動

人類と地球の未来のために、自分たちにはどのようなことができそうか。①「循環型社会」、②「低炭素社会」、③「自然共生社会」の3つの視点から自分たちができそうだと思うこと、してみたいと思うことなどを考えさせ、グループごとに画用紙にまとめさせた。グループは4人とし、インターネット等で調べられるように各グループにiPadを1台ずつ渡した。

■発表・振り返り

最後にグループの発表と個人で振り返りの活動を行った。グループごとに調べたこと・自分たちにできることを発表していった。そして、人類と地球の未来のための地球にやさしいライフスタイルとしてどんなことができるかについて、健康と関連させて考えさせ、個人で感想を書く活動をした。感想用紙を回収し、授業を終えた。

Ⅳ 授業の様子



持続可能な社会について調べる



iPad を用いたグループ学習



グループでまとめる

